

弟子屈町のさらなる発展を目指して

弟子屈町では「今」...

世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症。その影響は観光を基幹産業としている当町ではとても大きく、そして、深刻です。

しかし、そんな中でも前向き、若者を中心にさまざまな取り組みが進められています。

特に影響が深刻である川湯温泉では、環境省の国立公園満喫プロジェクトやてしかがえこまち推進協議会が策定した「てしかがスタイルのエコツーリズム全体構想」の下、廃ホテルの解体をきっかけに、新たな展開へと歩みを始めました。

9月下旬には小泉進次郎環境大臣が同地域を視察し「壮大なもったいなさ」と表現するほど、魅力に溢れた地域であると示唆するなど、今や全国から注目を集める川湯温泉。

今月号では、そんな川湯温泉での硫黄山登山トレッキングや、町内でのトレイルへの取り組みを紹介し、先日行われた川湯温泉キックオフイベントのKAWAARUなど、それらにかかわる若いキーマンの皆さんの思いなどをお伝えします。

コロナ禍での観光関連の動き

観光のまち、弟子屈町は 更なる発展を目指す



RECAMP OPENイベント



川湯の森ナイトミュージアム



小泉環境大臣来町

6月26日	RECAMPによる町内キャンプ場(帯管理)桜ヶ丘森林公園、砂湯和琴野営場
9月2日	エコツーリズム推進全体構想変更の大臣認定
9月3日	阿寒摩周国立公園川湯地域運営協会による湯川のパイプ撤去
9月19日	硫黄山トレッキングの開始
9月26日	小泉環境大臣来町
9月末	旧華の湯ホテル解体完了
10月1日	摩周・屈斜路トレイルオープン
10月4日	KAWAARU川湯の開催
10月17日	ナイトミュージアムの開始(硫黄山・川湯園地ライトアップ)

用語解説

■エコツーリズムとは？
自然環境や歴史文化を対象とし、それらを体験し、学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ考え方で、エコツーリズムの考え方を実践するためのツアーを「エコツアー」と呼びます。

■エコツーリズム推進全体構想とは？
エコツーリズムを推進するために定める地域の指標であり、町は平成28年に「てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想」として国の認定を受け、北海道では最初の認定地域となりました。

■てしかがえこまち推進協議会とは？
「誰もが自慢し、誰もが誇れるまち」を目指し、観光を基軸としてまちづくりをすすめる住民主体の団体です。活動主体となる8つの専門部会のうちのエコツーリズム推進部会において「てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想」に基づき、エコツーリズムを地域全体での取り組みとなるよう広げていく活動を行っています。

エコツーリズム推進全体構想変更認定と アトサヌプリトレッキングツアーの開始

町のシンボルのひとつである硫黄山(アトサヌプリ)は20年前の落石事故を契機に登山禁止措置がとられ、長らく登山ができませんでした。そこで「てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想」の中で、「硫黄山の噴気孔」を特定自然観光資源に指定し、独自の立入制限を行うことで山麓の登山も含めた「アトサヌプリトレッキングツアー」を可能に。てしかがえこまち協議会から特別に許可を得た認定ガイドの皆さんが、有料でアトサヌプリの自然や歴史の案内をします。歴史と文化、自然を体感しながら環境保全に貢献できる町ならではのエコツアーです。



全体構想変更認定証授与式



アトサヌプリトレッキングツアー



噴煙を上げる硫黄山

摩周・屈斜路 トレイルがオープン



摩周・屈斜路トレイル(摩周湖第一展望台(和琴半島・約44キロ)が10月1日にオープンしました。このトレイルは、てしかがトレイルクラブが運営し、コンセプトは「火山と森と湖の壮大なるカルデラをたどる道」。摩周湖と屈斜路湖を渡り歩き、火山がつくり出した独特の自然景観、川湯温泉街や野湯、コタンを通りながら歩く、弟子屈ならではの自然を深く実感できるトレイルです。



摩周・屈斜路トレイルは、弟子屈町内だけでなく近隣地域とも連携して「歩く旅の文化」を創り、国内外を問わず、さまざまな方たちに歩いてもらい、弟子屈町を好きになってもらいたい。また、地元の人や子どもたちにも歩いてもらい地域の宝を再発見できるトレイルにしたいと思っています。

今までの時代はいかに地域の資源を利用してお金を稼ぐか。経済を回すかでした。

ですが、加えて、これからの時代はいかに地域の資源を見直し未来に残していけるか。これだけ豊かで素晴らしい自然をどう活用し、そしてどう保全していくかが大事なと思います。持続可能なまちづくりという点でエコツーリズムという考え方は重要です。エコツーリズム推進全体構想認定地域としてしっかりとやっていかなければならないと思います。

ここ数年この町でトレイル整備や硫黄山(アトサヌプリ)登山のための踏査をして改めて自然の素晴らしさと歴史の深さを感じています。火山と森と湖、川、星空そこに暮らす人々、動植物たち。アウトドアをするには最高のフィールドです。そして活動の後には温泉があります。最高ですね。皆さんもこの町で自分のお気に入りのフィールドを探してみてください。ここでの暮らしがさらに豊かなものになりますよ。



てしかがえこまち推進協議会
エコツーリズム推進部会
部会長 藤原仁さん

インタビュー① いかに地域の資源を見直し 未来に残していけるか



配管撤去前



配管撤去後

川湯温泉街の温泉が流れる川は、この地域ならではの自然豊かで珍しい光景です。緑に変色した川、硫黄特有のにおいをもっと感じて頂きたいという川湯地域運営協会の皆さんの願いから、景観を阻害する配管の撤去。川沿いを散策するための遊歩道を整備しています。

川湯地域の再生に向けた新たな取り組み

また、川湯の温泉濃度の「pH1.7」は日本屈指の強酸性です。強酸性には「殺菌効果」があるとされています。現在その効果を科学的に証明する取り組みを実施しています。また、エコミュージアムセンター裏には、アカエゾマツの群生があります。アカエゾマツには、フィトンチッドという害虫から身を守るために放出する化学物質（香り）が豊富に出ており、この物質にも殺菌力があるとされています。衛生面、感染症予防に敏感な今、この地域の温泉や森林の特性を知り、また相乗効果を検証することで、川湯にある自然の恩恵を最大限活用し、観光地としての再生を加速させるよう取り組んでいます。



アカエゾマツの森

満喫プロジェクト・旧華の湯解体

「KAWaaaaRu川湯」 (かわーる)

環境省が実施している阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトで、廃業していたホテル『旧華の湯』が9月末に解体されました。その跡地にて（一社）摩周湖観光協会（渡辺隆幸会長）が、今後の川湯温泉の再生と「変わろう！」という願いを込め、「KAWaaaaRu（かわーる）川湯」を10月4日に開催しました。初のイベントに取り組んだ宮崎さん、筒井さんにお話を聞きました。



皆が一丸となり川湯を変えるんだ！そんなイベントを開催できたことをとても嬉しく思います。当日は摩周湖観光協会渡辺会長のキックオフセレモニー、弟子屈小学校・高校の吹奏楽演奏やアイヌ古式舞踊、川湯ばやしなどが会場に華を添え、さらには川湯温泉街・弟子屈市街地の企業・組合が腕によりをかけた食が提供し、来場された皆さんがとても無邪気に笑っていたことが私の1番の思い出となりました。長年放置され、廃屋と化したホテルは観光地としての景観を損ねるだけではなく、屋根や壁が崩れとても危険です。そのホテルを解体し、記念イベントを開催しました。え？それで？と思われる方、いらつしやいますよね？そうなのです。何か建つ



旧華の湯ホテル

インタビュー②
川湯は変わる！そんな願いを込め名付けたイベント『KAWaaaaRu川湯』

わけでもなく何も決まっていません。ですがこれは川湯温泉にとつて大きな一歩になります。全ての廃屋を撤去するにはまだ時間がかかりますが、これまでできなかったことができるようになり、そして確実に前へ進むことができます。アレが建たないかな？アレが来てくれないうかな？などいろいろ夢が膨らみますね。

町の最大の魅力は自然です。雲海や星紀行・屈斜路湖や釧路川のカヌー、硫黄山つづじヶ原散策エコツアールや硫黄山の登山再開をはじめ、摩周・屈斜路トレイル、川湯ナイトミュージアム、川湯温泉川トレイルなど新たなコンテンツ・アクティビティもどんどん増えていきます。満喫プロジェクトでもうひとつの廃屋ホテルの解体が決まっています。町が今よりもっと魅力ある国立公園・観光地となるべく、これからさらに官民が力を合わせなければなりませんので、応援・ご協力よろしくお願ひします。



川湯料飲店組合 宮崎 健一さん

民間と行政の協働が大切

ここ10年、川湯温泉では中・大型旅館などの廃業が続きました。このため、短期的には既存の旅館単体としては、廃業したホテルなどの宿泊が既存のホテルなどへ集中し、宿泊数も増加するなど良くなることもありましたが、残った廃屋や廃ホテル、それに伴う失業者増加、消費の縮小などの問題に対してはなかなかの対策が必要でした。廃屋による景観の悪化や人口減少、宿泊バリエーションの減少で、温泉まちとしての魅力や地域経済の縮小など、中長期的には必ず大きな悪影響がでてくると思われています。こうしたことから、これからの川湯温泉の再生のためには、地域内の空き家や空きホテルを買い取り、リノベーションして営業を再開するなど、地域全体を経営するという大きな観点が必要だと感じています。今後、川湯温泉の再生に向けて大切な事は、民間は民間にしかできないことを、行政には行政にしかできないことを協働して実行

インタビュー③
新しい価値を探りながら川湯温泉を高めていく

今回、初のイベントということでゼロからのスタートでした。川湯に何度も通い摩周湖観光協会担当理事の皆と打合せを重ね、当日は大勢の来場者にお越し頂けとことに安堵しています。また、市街の飲食店や商工会青年部にも協力頂きました。僕らの世代では市街地と川湯地区、20kmの距離で連携・交流が少なかったのですが、今後KAWaaaaRuかもしれません。「国立公園満喫プロジェクト」の成果が今回の「KAWaaaaRu川湯」に繋がるわけですが、新しい価値を探りながら川湯温泉を高めていく、キックオフイベントとして町民の皆さんと共々でき、とても良いタイミングだったのではと感じます。



解体予定の川湯プリンスホテル

今後、この地域は変わっていきます。旅行の形態も30年前とは様変わりしてきています。弟子屈という地域を軸に、町民一人ひとりが手を取り合っで、川湯温泉を盛り上げていかなければならぬ、全体的にこの思いを一致させなければならぬと思います。これから新たに廃業ホテルの解体が続きます。そして、さまざまな角度から新しいことが続いていくかと思えます。町民の皆さんがそれぞれの地区の役割を考え、変化を「受け入れる」ということがキーワードになってくるのかなと僕は思います。



摩周湖観光協会理事 筒井 貴文さん

欣喜湯 榎本社長より
震災直後ということもあり、出社初日の4月1日から3日間の宿泊がゼロのため、休館を余儀なくされたことを覚えています。会社の再生のため組織を見直し、お客さまの声に耳を傾け、食事内容を変え、総務環境改善に取り組み、少しずつではありますが、よりよい会社へ近づいていると実感しています。まだまだ道半ばではありますが、この会社を再生してきたように、川湯温泉がひとりでも多くのお客さまに愛され、住みよい町となるように、地域の方々をはじめ、お客さまやスタッフの声に耳を傾け我々が次の世代へ胸を張って引き継げるよう、この川湯をより良い地域にしていきたいと思っていますので、これからも皆さまのご支援をいただきますよう心からお願ひいたします。

町民の皆さまへ感謝を
町民の皆さまには、日ごろから川湯温泉を応援していただき、心から感謝を申し上げます。私事にはなりますが、私が地元である川湯温泉に戻ったのは、2011年4月でした。実家のホテル勤務は東日本大



お宿 欣喜湯 榎本 竜太郎 社長